CHATEAU DE VERSAILLES
Versailles
Philharmonic Quintet

ヴェルサイユ
完全復活
2016.08.07
Maihama Amphitheater
Chateau de Versailles

VOCAL. KAMIJO

世界中に僕たちを待っていてくれる人がいる。その場所に僕たちは行かなければならない

——復活ライヴの前哨戦でもあるZepp Diver Cityのライヴでは、復活にいたるまでの軌跡を追った映像が公開されました。その内容がかなり、赤裸々なものだったので正直驚きました。

「Versaillesはバンドの世界観を構築、提示するために、メンバー個々の、生身の人間としての部分をみなさんに見せることがなかったんですね。ただ、今回復活にするにあたって、生身の人間としての部分をみなさんに見ていただかないと、復活する意味が伝わらないと思ったんです。ファンの方によっては“復活の理由なんていらない”という方もいらっしゃるかもしれませんが、メンバーそれぞれに、心動かされた出来事があっての今回の復活なので自分たちの心の動きをちゃんと伝えたかったんです」

——復活となって再び5人で集まった最初のリハーサルの時の事を覚えていますか？

「昨年12月に行った、僕のアニバーサリーライヴ（『LA VIE EN ROSE KAMIJO -20th ANNIVERSARY BEST- Grand Finale Zepp DiverCity Tokyo』）で久しぶりにVersaillesのリハーサルした時は、ゲネプロ（ライヴの通し練習）だったので、スタッフが大勢いて、みんな“この時を待っていた”みたいな空気感があって、少し照れくさかったですね（笑）。周りの期待感や緊張感が伝わったのか、その日にPCが2台壊れました（笑）。ただ、6月25日（Zepp DiverCityで開催）のリハーサルでは、まったくもって3年半前と変わらない空気のなかでできたんですね。なんの違和感もなく」

——そしてベストアルバム『The Greatest Hits 2007-2016』が9月14日に発売。既存の曲のリテイクに加え新曲2曲が収録されます。

「僕の曲とHIZAKIくんの曲が1曲ずつ、合計2曲が収録されます。一言で言うと、月と太陽のような曲です」

——どちらが月で、どちらが太陽ですか？

「僕の曲が月で、HIZAKIくんの曲が太陽ですね。以前、HIZAKIくんと彼が作る明るい楽曲に僕が乗せる歌詞とのコントラストはVersaillesの凄く良い部分ではないかと話していたことがあって、今回のHIKAKIくんの新曲はそれが活きている曲ではないかと思います」

——楽曲制作にあたって予めテーマみたいなものはあったんですか？

「Versaillesの結成当初からあった、薔薇の蔦のように絡み合うギター、しっかりとしたリズムそして、美しいメロディー。それらによって構築される“耽美の極み”。

これはしっかり表現したかったんです」

——歌詞に関しては？

「まさに復活のことをテーマに歌っています。“僕たちを待っていてくれる人がいる。その場所に僕たちは行かなければならない”といった決意表明の曲です。みなさんにしっかり伝わるように書きました」

——復活にあたって、あらためてメンバー個々についてお話を伺いたいのです。まずはHIZAKIさんから。

「ギタリストとして、もちろん素晴らしいのですが、バンドサウンドの要として彼は重要な存在です。たとえば、僕の曲をHIZAKIくんに渡すと、“そこまで変える？”っていうぐらい曲が激変することがあるんですね。僕のなか

にはない新しいアイデアを提示してくれるんです。そこは特に信頼しています」
――その信頼感はバンド結成当初からありましたか？
「最初はHIZAKIくんも僕の作る曲を大胆にアレンジすることに対して遠慮があったと思うんですが、『Lyrical Sympathy』あたりから、HIZAKIくんが積極的にサウンド全体に関わるようになってきて、現在の僕とHIZAKIくんとの関係性は構築できました」
――そしてTERUさん。
「バンドはよくヴォーカルとギターの2トップというような言われ方をするとは思いますがVersaillesは僕とHIZAKIくん、そしてTERUくんの3トップだと思っています。ここまで華やかフロントがいるバンドはないと思うんですね。また、彼はサウンド面だけではなく、アートワークといったクリエイティブの部分でも大きな力になってくれています。もしかしたら彼は自分がリーダーだと思っているんじゃないでしょうか（笑）。でも本当にそれぐらいの気持ちで彼はやっていると思いますよ」
――そしてMASASHIさん。
「空気の調和ですね」
――それは、どういったことですか？
「彼がいることでバンドの調和が保てていると思うんですね。ベースプレイに関しても信頼をしているんですが、人間的に素晴らしいんです。バンドなので、時には不平不満が出るんですが、彼がいることで、バンドの空気を調和してくれるんですね」
――彼の言葉で印象に残っていることはありますか？
「"おやおや"ですかね。よく彼が使う言葉なんです。おばあさんみたいな口調で言うんです。でも、最近何をいっても"おやおや"なので使用禁止にしました（笑）」
――そしてYUKIさん。
「復活してから、彼と2人でリズムアレンジをする時間が多くあったんですが、その作業が僕の楽曲制作のインスピレーションに直結したんですね。だから音楽面においてもVersaillesは本当の復活を遂げたんじゃないかと思います。YUKIくんはVersaillesのドラマーとしてなくてはならない存在ということをあらためて感じました」
――そして、5人目、"VersaillesのKAMIJO"に久しぶりに会っての感想は？
「今年3月のKAMIJOソロのパンフレットを撮影した時に、いつもの僕と違うなと感じた瞬間があったんです。"あっ、これはVersaillesのKAMIJOだって"。その後、ベストアルバムのレコーディングをしているなかで、自然と降りてくる感じでVersaillesのKAMIJOと出会った感覚がありました。"あっ、久し振りだね"って」
――そして、いよいよVersaillesは再スタートをきりましたが、今後のVersaillesの行き先を教えてください。
「Versaillesは日本だけでなく、国外の方を含めて、多くの方々に支持していただいているので、海外でもライヴをしたいですし、Versaillesが存在していないとこのシーンが、また違う方向にいってしまうし、このシーンをより大きくするといった意味でも、このバンドの役割は大きいんではないかと思います」
――その使命感はあるんですね。
「使命感というのではないのかも知れませんが、Versaillesが後輩たちに、強い刺激を与えていかないとシーンが盛り上がらないという、その責任は感じているんです」
――最後にメッセージをお願いいたします。
「復活ライヴの直前、直後にこの記事を読んでいただいているかと思いますが、まずは、この場所に集ってくれてありがとうございます。僕たちVersaillesが、どんな気持ちで、どんな形で、そしてどんな力をもってこの復活ライヴを迎えることができたか、今日来ていただいたみなんさが、その耳で、肌で感じていただけたことと思います。Versaillesの未来は、今日のライヴでみなさんが感じていただいた、そのものだと信じていてください。Versaillesは今、結成以来最強の状態にあります。今一度みなさんの力をお借りして、より大きな場所へ階段を昇っていきたいと思っております。We Are Versailles!」

GUITAR. HIZAKI

Versaillesのテーマは“できないことはない”。おもしろい事はなんでもやっていきたい。

――6月25日のZepp DiverCityでのライヴの感想を聞かせていただけますか？

「会場全体の一体感がありましたね。メンバーも、とにかく楽しもうという意識が強かったですし、ファンの人もそういう意識が強かったと思うんですね。そのお互いの気持ちがリンクしてライヴの一体感につながったと思います」

――メンバーが楽しそうにプレイしているのが伝わってきました。

「活動休止前までのライヴは、なにか仕掛けてやろうといったような、ショーとして楽しめるように見せたいという部分が強かったと思うんですが、今回のステージは生々しいロックバンドらしいライヴができたと思います」

――そして9月にはベストアルバムが発売されます。過去の曲をリテイクするという作業はいかがでしたか？

「今まで、ベスト盤は過去にもリリースしていたんですが、今回はインディーズ時代の曲も収録されます。その当時のレコーディング技術や、自分のプレイを今聴くと、雑に聴こえる部分もあるんですけど、そこを録り直せたのはよかったですね」

――ただVersaillesの楽曲はリリースした時点で、緻密に構築されたサウンドですから、リテイクといってもそれほど大胆にアレンジを変えるのは難しいと思いますが。

「確かにそうですが、そのなかでもギターパートに関しては比較的自由にアレンジをすることができました。ただ、リテイクって“前のほうがよかった”っていうのがファン心理だと思うんですね。僕も海外のバンドのリテイクものを聴いてきているので、その気持ちはよく分かるんです。だから、その辺は考慮してバランスをとって、リテイクに臨みました」

――新曲2曲のうち1曲はHIZAKIさんの曲ですね。

「はい。僕の作る曲は、メジャー曲のスピードナンバーというイメージがどうやらみなさんにあるらしく……。今回新曲を作るにあたってメンバーにも“明るくて速いやつを”って言われたんで、“はーい”って、リクエストに応えました（笑）」

――楽しみです。そしてここからは個々のメンバーについてコメントをいただきたいんです。まずはTERUさん。

「まず、こだわりが強い人間ですね。これは音楽に限らず、自分がこうだと思ったものに関しては、信念を貫く人です」

――頑固？

「自分がこれだと思ったことに関してはそうです。ただ、興味がないことに関してはまったく関心がないんですね。極端なんです」

――HIZAKIさんとギタープレイの解釈の相違みたいなディスカッションすることはありますか？

「たとえば、リズムのタイミングの取り方も僕とTERUでは違うんです。結成当初は“なんでこういうタイミングで弾かないんだろう”といったようなことはお互いありましたが、今はツインリードだからといってノリを完璧に合わせなといけないという事はないんじゃないかなと思っています」

――音楽を離れたところでどんな話をしてますか？

「TERUは移動中であっても基本寝てますからね（笑）。ただ、彼も関西人なので、関西に帰ると、気持ちが落ち着くのか口数が増えるんです、よく喋るようになります（笑）」

――そしてMASASHIさん。

「一緒にいると安心します。どっ

HIZAKI Personal Interview

しりしているんです。そして"NO"とはあまり言わない人。本人のなかでは、いろいろな想いもあるかとは思うんですが、"YES"ということで、周りのテンションを上げるといったことがあるんですよ」

——ムードメイカーですね。

「僕とKAMIJOさんは人から意見やアイデアを提案されると、それ以上の答えがないのか、すごく考えてしまうんです。そんなときにMASASHIくんに"はい"って言ってもらえると、安心できるし、その場がまとまるんです」

——そしてYUKIさん。

「YUKIくんも肯定的に物事を見る人ですね。まぁ、Versaillesはヴォーカルとギターの3人が頑固者なので、リズム隊の2人が"はい"っていってくれることによって、調和がとれているのかなと思います」

——コンポーザーとしてYUKIくんとのやり取りはどのようにしていますか？

「僕はデモの段階でリズム隊パートもがっつり作り込んでいきますが、わざと余白を残す部分を残しておくんです」

——どういったことですか？

「たとえば、ドラムのパートをわざと下手に打ち込んだりして、ヒントだけ投げるんです。"この曲のこのベースパートは聴かせどころなので、YUKIくんに考えて欲しいという感じで」

——ガチガチ作りこむと、なぞるだけになってしまう可能性がありますからね。そしてKAMIJOさん。彼と初めて会ったときの事を覚えていますか？

「はい。僕の知らないことをたくさん知っていますし、当時は音楽的にもまったく追いついていなかったですから、同じバンドのメンバーでもあり、師匠でもあったと思います」

——結成当初はギター・プレイについても、細かくリクエストやアドバイスがありましたか？

「最初はVersaillesで速弾きをするつもりはなかったんです」

——それは意外ですね。

「KAMIJOさんのヴォーカルを聴いていて、ギターを弾きまくるイメージではなかったです。リズムがどっしりしたエヴァネッセンスのようなアンサンブルになるイメージだったんですが、KAMIJOさんが"ツーバスが大好きなんだよね"って言っていて」

——Versaillesを始動するまでのKAMIJOさんには"メタル"というイメージはなかったので、Versaillesがメタルサウンドのエッセンスを取り入れたのは、HIZAKIさんやTERUさんのアイデアだったのかと思っていました。

「いや、逆ですね。KAMIJOさんのアイデアです。僕やTERUのプレイを踏まえたうえでのアイデアだったのかもしれませんが、Versaillesがシンフォニックなメタルサウンドになったのは KAMIJOの構想です」

——これは驚きの真実です。今後のVersaillesはどうなっていくのでしょうか？

「あと１０、２０年続けていけるバンドになりたいし、世界進出に関しても真剣に考えていきたいですね。また、国内ではテレビを含めもっと人前に出ていきたいです。KAMIJOさんにはバラエティ番組にも出演していただいて……」

——そこまでの意識もあるんですね。

「Versaillesのテーマとして"できないことはない"ですからね。おもしろい事はなんでもやっていきたいですね」

——そこも誤解していました。Versaillesはより広くというより、深くてコアな存在でありたいのかと思っていました。

「ただ頑固なアーティストにはなりたくないです。これまで応援してくれてきたファン、さらにより多くの人に向けて音楽を発信していきたいんです」

——最後にメッセージをお願いします。

「３年半待っていてくれてありがとうございます。ここからVersaillesが再び突き進んでいきます。そして奇跡といえるような出来事を起こしていきます。僕たちも信念をもって活動していきます。ファンのみなさんも"Versaillesが好き"という信念を強くもってください」

GUITAR. TERU

アイデアをカタチにするときのワクワク感をKAMIJOさんと共有できるんです。

——6月25日 Zepp DiverCityで久し振りに5人でプレイしてみてどうでしたか？

「懐かしい感触もありつつ、"Versaillesの曲って難しいな"ってあらためて思いましたね（笑）」

——Zepp DiverCityのライヴにあたってアレンジ上で新しいエッセンスを入れた部分はありましたか？

「曲と曲のつながりや、セットリストの流れなどは、スタジオで5人アイデアを出し合って考えていったんです。これはバンドとしては当たり前のことなのかも知れませんが、活動休止前にはバンドみんなでアイデアを出し合って決めてゆくようなことが、少なくなっていたので、今回のそういった、バンドらしいやりとりがあって、良かったと思います」

——ここで、復活にあたってあらためてメンバーについてコメントを聞かせてもらいんです。まずはHIZAKIさんから。

「僕にとって、こんなによく分からない人はほかにいないですね（笑）」

——その"よく分からない"というのはギタープレイヤーとしてですか、それとも人間的に？

「どっちもですね（笑）。僕とHIZAKIさんとでは、まず見ている方向自体がまったく違うことが多いんです。たとえば、一緒にライヴ観に行っても、まったく真逆の感想だったりとか……。ですから、"こんなものの見方があるんだ"といつも教えられることが多いですね。まったく違う人間というのが、ライバル意識がありながらも、いい距離感で関係を保っていられる理由かもしれませんね」

——そしてMASASHIさん。

「MASASHIくんが加入して、初めて音を合わせたときから、彼の弾くベースに対してまったく違和感がなかったんです。"一歩引きつつも、しっかりした芯のあるプレイ"というのがMASASHIくんのスタイルだと思うんので、そういった彼のスタイルが、あの頃のVersaillesが求めていたものとピッタリ合ったんだと思います」

——人間的にはどういった人なのですか？

「まず、"やさしい！"」

——その"やさしい"エピソードを一つ聞かせてください。

「おいしいお店を教えてくれます（笑）。あとYou Tubeとかのおもしろ動画を教えてくれるんです。いつも彼は僕に幸せをおすそ分けしてくれるんですね（笑）」

——お互い"幸せ"と思えるツボが同じなんでしょうか？

「近いと思います。MASASHIくんがキッカケでハマったものもありますしね」

——そしてYUKIさん。彼と初めて会ったときの印象は？

「お硬い感じの人。A型っぽい、神経が細やかなイメージでした」

——実際付き合ってみてイメージは変わりました？

「いや、A型感はまったく変わらないですね。僕はO型なんで、こだわるところは顕微鏡で見るぐらい細かいんですが、それ以外のところは、けっこうテキトーなんです」

——ドラマーとしてのYUKIくんは？

「その細やかな性格がプレイにも出ていますね。ただ、緻密なプレイスタイルでありつつ、人間味溢れる熱いプレイをするので、プレイヤーとして尊敬しています。また、つねにドラムや、自分の体のコンディションも気にしています」

TERU Personal Interview

——アスリート気質みたいな……。

「そうですね。ドラマーにとって肉体の管理というのは大切ですからね。僕は徹夜明けでスタジオに行ったりすることもあるので（苦笑)、そこは見習いたいところです」

——そしてKAMIJOさん。活動休止中はKAMIJOさんに会っていましたか？

「はい。KAMIJOさんのソロ作品でもデザインを担当させていただいていたので、お互い違うことをしながらも、コミュニケーションはとっていました」

——バンドを離れてもアートワークをTERUさんにお願いするだけあって2人の美的感性には近いものがあるんですよね。

「何かを表現するときに、アイデアが浮かんでそれをカタチにするワクワク感みたいなものはKAMIJOさんと共有できるんです。他人が聞いたら突拍子のないアイデアでも、KAMIJOさんと僕は本気になってそれを実現するための方法を考えるんですね。それが楽しいんです」

——KAMIJOさんの突拍子のないアイデアをTERUさんに話している光景が浮かびますねぇ。

「世の中のほとんど人が無理だと考えるようなアイデアでも、二人して、どうやってカタチにしようか真剣に考えるんです。KAMIJOさんも僕も、まず不可能というジャッジはしないですね」

——今回復活するにあたってKAMIJOさんから突拍子もない言葉はありましたか（笑）？

「"伝説を作ろう！"ですね。3年半前に一旦バンドを活動休止しましたが、あの時はバンドにとって活動を止めることが必要だったし、宿命だったように感じるんです。そして、また今回Versaillesが復活するのも宿命だと思うんです。5人で伝説を作っていきたいですね」

——そしてベストアルバムがリリースされます。全曲リテイクされていますが、基本的には原曲のイメージを損なわないようなアレンジになっていますね。

「そうですね。だから"昔のアレンジのほうがよかった"みたいな感じにはなっていないと思いますよ（笑)。ただ、オリジナルヴァージョンは曲ができてすぐにレコーディングしなければいけなかったりで、演奏することでいっぱい、いっぱいだったりもしましたが、今回収録した曲たちは、ライヴで演ってきた曲が多いんで、成熟したカタチで、楽曲がもっている、また違う面が表現できたと思います」

——そして新曲も2曲収録されます。新曲の制作過程でこれまでと違ったところはありましたか？

「"難しくし過ぎない"ということは学んだような気がします。以前のVersaillesの曲は聴いているだけだと伝わりにくい部分が妙に複雑だったりしたんですね。"隙があれば音を詰め込む"みたいな感じでプレイしていましたから……。そうしないとほかのメンバーに負けてしまうような気持ちがあったんです。ただライヴでのパフォーマンスをカッコよく魅せることも大事なので、そこはレコーディングの時点でステージのパフォーマンスを想像して一歩引いてフレーズを考えるようになりました」

——なるほど。

「だからといって、ただただ平和にやるつもりはないんです。これからもメンバー同士、バチバチに攻めぎ合っていきますよ」

——頼もしいです。

「今は、お互いに刺激し合って高めていこうというようにポジティブな方向にベクトルが向かっています」

——最後にメッセージをお願いいたします。

「この度Versaillesは完全復活しました。3年半待っていてくれてありがとうございます。復活するからには、過去を超えないと意味がないと思っていいるので、攻めた、そしてみなさんの予想を超えたVersaillesをお見せしたいと思います。熱く燃えています。これからも僕たちについてきてください！」

Bass. MASASHI

これからのVersaillesは、想像できないぐらいおもしろいことが起こるんじゃないかと予感しているんです。

——まず、6月25日にVersaillesとして久しぶりにステージに立った感想を聞かせてください。

「5人で音を出してみて純粋に楽しかったです。ただ、Versaillesとしてステージに立って懐かしいという感覚もありましたが、以前とまったく同じ感覚ではなかったです。この3年半の期間に演奏、パフォーマンスのレベルは確実に上がっていると感じました。ですから、新しいVersaillesという感覚もありました」

——そして待望のベストアルバムが9月にリリースされます。ただし、これはただのベストではない全曲リテイクだというのが凄い。

「僕はメジャーデビューしてから加入したので、加入当初はYouくんが弾いていたフレーズを参考にしていたんですが、ライヴを重ねてゆくうちに自分なりのアプローチにはなっていたんで、今回インディーズ時代の曲を僕のテイクで発表できるのは嬉しいですね」

——MASASHIさん的な聴きどころを教えてください。

「"After Cloudia"は人気の高い曲ですが、音源では僕が弾いていなかったので、今回のアルバムで僕の弾いているテイクが収録されているので、自分的には肝になっていると思います。またこれは聴きどころとは違うんですが、僕の中で思い入れがあるのは"Destiny-The Lovers-"です」

——MASASHIさんが加入後初めてレコーディングした曲ですね。

「この曲を演奏すると、加入した頃のCC.レモンホール（渋谷公会堂）でのライヴを思い出します。あの時は僕がこれまでにステージに立ったなかで一番緊張した瞬間です。そんなこともあって、この曲は自分の心の中に深く刻まれているんです」

——なるほど。さて、ここからは、いよいよVersaillesが再始動ということで、あらためてメンバーにつてお聞きしたいのです。まずHIZAKIさんから。

「メンバーのなかで一番付き合いが古いのが彼ですね。以前、僕がやっていたバンドとよく対バンしていたんです。その時は打ち上げも一緒にやったりしていて。そのあと一緒にバンドを組むことになるとは、その時は想像ができなかったですけどね」

——その頃のHIZAKIくんの印象は？

「当時は"お疲れ様です"ぐらいの会話しかしたことがなかったんですが、ルックスも女形で凄く美しくてズバ抜けていました。当然ギターの腕自体もすばらしい。目を引く存在でした」

——その後Versaillesで一緒に音楽を演ってみてどうでしたか？

「KAMIJOさんと同様に完璧主義者ですね。音に関してこだわりがすごいし、シビアです。そこは見習いたいと思っています」

——KAMIJOさんとHIZAKIさんとのこだわりポイントの違いっていうのはあるんですか？

「2人とも完璧を求めてはいるんですが、美的感覚、価値観の違いもあって、いい意味で感覚のズレがあるんです。ただ、これは言葉にするのは難しいんですが、その感覚の違いが、絶妙にバランスがとれていてVersaillesに活かされると思うんですね。これは僕がサポートメンバーだった頃から、2人を客観的に見ていて感じていたことです」

——次にTERUさん。

「Versaillesのアートワーク担当として重要な役割を果たしてくれています。ギタリストとしてはすごくストイックな人。HIZAKIく

MASAHI Personal Interview

んのプレイにはどこか“遊び”が入るんですが、TERUくんはガチガチに固めて弾くタイプ。その違いがまたおもしろいと思うんです。ただ、音楽から離れるとおおらかなところもあるし。ツアー先で僕とYUKIくんが飲んでいると、TERUくんは普段お酒を飲まないのに寂しいのか、たまに飲みの場に入ってくることがあるんですね。一番年下なんで僕からすると弟のような存在ですね。カワイイ子です（笑）」

——そしてYUKIさん。

「彼とは家が近いし、メンバーのなかで一番一緒にいる時間が長いですね。あと、飲むペースが合っているので、良く飲みに行きます。今でも月一ぐらいはいまでも朝まで一緒に飲んでますね」

——普通に飲み友だちですね（笑）。

「Versaillesに加入するとき、YUKIくんとは面識がなかったんです。それで、“今度一回飲みに行こう”っていう話になって。初めて飲んだ日から、すぐに打ちとけて、それからずっと飲み友だちですね」

——バンドのプレイにおいても、飲んだときのコミュニケーションは活かされていますか？「活かされていると思います……多分（笑）。たとえば、僕がこう弾いたら、YUKIくんはこういうアプローチしてくるだろうなと思っていると、実際そういうアプローチをしてくることがよくあって、演奏面でもお互いに会話ができていると思います」

——すばらしい！

「この間も車の中で会話していて、一緒のタイミングで、同じ言葉を言い出すことがあったんです（笑）」

——天性の相性の良さですね。ライヴでもよくアイコンタクトをとっていますよね。

「そうですね。YUKIくんが忙しいタイミングは分かっているので、そのタイミングを避けてYUKIくんとアイコンタクトをとるんですが、たまにSッ気を出して、YUKIくんが忙しいであろうというポイントでずっと見つめるっていうのもよくあります（笑）」

——そしてKAMIJOさん。

「メンバーでもあり、恩人ですね。KAMIJOさんに声をかけていただいて、今こうやってVersaillesでベースを弾いているんですからね」

——活動休止中でも、コンスタントにKAMIJOさんとは連絡をとっていたんですよね？

「はい。休止中から“復活したらこの曲をオープニングにしよう”とか、いろいろ話はしていたんです」

——そしてこうして久しぶりにVersaillesのKAMIJOさんと会っていかがでしたか？

「休止中の3年半で、さらにKAMIJOワールドに磨きがかかっているように感じました。また、ステージでKAMIJOさんの背中を見ていて、あらためてその存在が大きいことも感じました。単なるヴォーカリストというよりもアーティストですね」

——そして、今後Versaillesはどうなっていくのでしょうか？　またこうありたいとう希望でも結構ですので、聞かせてください。

「まず、ファンのみなさんをいい意味でヒヤヒヤさせたいですね。ここ数年間、僕はサポートの仕事もしてきたので、そこで磨いたものをVersaillesのお土産にできたと思います。そしてこれからのVersaillesは、自分でも想像できないぐらいおもしろいことが起こるんじゃないかと予感しているんです」

——最後にこれを読んでいただいてる方にメッセージをお願いします。

「3年以上時間が空いてしまいましたけれど、6月のライヴでは、みなさんの温かい声、表情を見ることができたことがすごく励みになりました。これまでVersaillesについてきてよかったなと思っていただけるように、いい意味でみなさんの期待を裏切っていきたいですし、ファンのみんなと一緒に夢を見続けていきたいですね」

DRUMS. YUKI

Versailles みたいなバンドは世界中どこを探してもいないということを強く自覚した。

――今回の復活のキッカケはKAMIJO さんからの電話だったとか。

「KAMIJO さんから“腹を割って一回、飲みながら話そう”という連絡があって。僕も復活に関して前向きに考えていたので、是非是非ということで……」

――そこで、フランクに話をされたんですね。

「乾杯したすぐその後から、お互いに遠慮せずに、思っていたことを吐き出しました（笑）。すべて吐き出したら、あとは、さっぱりしたもので、ガッツリ握手して“じゃあ、また一緒にやろう”ということになりました」

――ドラマチックな夜でしたね。

「あの日に、復活にするにあたって、解決しなければいけないこと、乗り越えないければいけないことを２人で確認しました」

――久しぶりに５人で音を出したときのことを教えてください。

「興奮しました。“これがVersailles の音だ”って。初めてバンドを組んで音を出したときのような感覚でした」

――そして、6月25日に行われたVersailles 完全復活の前哨戦ともいえるZepp DiverCity のライヴにつながっていくんですね。

「あの日のライヴのテーマの一つとして、ファンの人たちの心配や不安を払拭してあげたいというのがあったんですが、その部分は、冒頭のドキュメントムービーとライヴパフォーマンスで確実にクリアーできたと思います」

――そして、全曲リテイクのベストアルバムがリリースされます。

「久しぶりにVersailles の曲を叩いたんですが、“こんなに難しかったかな”と思いました」

――TERU さんも同じことをおっしゃってましたよ。

「Versailles の楽曲は、歌のバックでも複雑なことをやっていて、1曲を通して気が抜けないです。ですから、ライヴでやり慣れた楽曲ではあったんですが、リテイクするにあたって練習が必要でした」

――今回のリテイクのなかでYUKI さん的な聴きどころというと、どこになりますか？

「“Philia”はテンポが速いのに容赦なく手数が多いので、レコーディングでは肉体的に大変でした。ただ、叩きながら過去に自分でアレンジしたドラムパートに確認しながら“ここはこんなことやっていたんだ”みたいな再発見がありました」

――そして新曲２曲が収録されます。

「KAMIJO さんの新曲のデモを作っているときに、僕も現場にいたんです。そのときにKAMIJO さんのアイデアに対して“そのパートはこういうフレーズを叩きます”みたいなやりとりがあって、

一緒に作っていった感じだったのです。こういったやりとりは、しばらくなかったので、楽しかったですね」

――ここで各メンバーについてコメントを頂きたいのです。まずKAMIJO さん。

「活動休止のNHK ホール以降、しばらく会っていなかったんですが、ある時KAMIJO さんのソロのライヴを観にいったんです。そこで初めて客観的にKAMIJO というアーティストに触れたんですね。そのとき“この人の存在感は凄いな”とKAMIJO さんの存在を再認識したんです。だから、Versailles の活動休止は決して無駄な時間ではなかったように思えるんです」

――KAMIJO さんから影響を受けた部分はありますか？

YUKI Personal Interview

「僕が言うのもおこがましいのですが、KAMIJOさんはここ数年で変わってきている部分があると思うんですね。以前よりも寛容になってきたようが気がします。アーティストとしてのいい意味でのエゴの部分は変わらずに、それ以外の部分では寛容になっていると思います」

——頑固者のイメージがありますものね（笑）。

「そんなKAMIJOさんを見ていて、僕も人間的に成長していかなければいけないとは思います」

——そしてリズム隊の相棒であるMASASHIさん。

「彼は若い頃からヴィジュアル系の厳しい縦社会で育ってきていますから、人間的な"余裕"とか"優しさ"を感じます。活動休止前はKAMIJOさんもMASASHIくんに相談することも多かったようですし、つねにバンド全体を見て中立な立場でものを言える人ですね」

——個性的メンバーのなかで、無くてはならない存在なんでしょうね。

「そう思います」

——そしてTERUさん。

「今度個展を開催するらしいですが、本当に多彩な人間ですよね」

——音楽や絵を描いていないときはどんな人間なんですか？

「一緒にいると、なにかしら僕にちょっかいを出してくるんですよ。それがTERUくん的にすごく楽しいらしいので、"じゃあ、どうぞお好きに"といった感じですね……」

——なすがままだと（笑）。

「最近TERUくんがよくやるいたずら（？）が壁ドン。それも少女漫画に出てくるようなやつじゃなくて、ただただ、僕を無理やり壁にバーンって押し付けて……」

——なんなんですかね（笑）。

「それで、僕が"イタいっ！"っていうのが彼的にすごくおもしろいらしんです」

——無邪気ですね。弟的な存在ですか？

「そうなんでしょうね。TERUくんだから、まぁいいかってなるのかも知れませんね。これがKAMIJOさんに壁ドンをやられたら、僕は反応できないですよ」

——（笑）ですよね。そして最後にHIZAKIさん。

「いろいろなところから素材をもってきて、自分の引き出しにしまっておいて、またアウトプットするという。技術と音楽的なセンスを兼ねそなえています」

——HIZAKIさん楽曲の特徴は？

「普通の人は4/4や3/4拍子みたいなレギュラーな拍にとらわれていると思うんですが、彼は自由に拍子を解釈できるんですね」

——ドラマーとしてはやり甲斐がありますね。

「僕も変拍子大好きなので、やっていて楽しいです」

——今後Versaillesでやっていきたいことを教えてください。

「なあなあでやっていくつもりはまったくないのですが、ずっとこの5人で音を出し続けていきたいですね。それとYou（Jasmine You）くんと約束していることがあるんです。それをまだ実現できていないので、その夢は叶えないといけないんです」

——Youさんとの約束はメンバー5人で共有しているのですか？

「はい、5人で共有しています。また、バンドが活休してから、はっきり分かったことがあるんです。それは、Versaillesみたいなバンドは世界中どこを探してもいないということ。それを強く自覚するようになりました。自分たちにしかできない、楽曲、ライヴパフォーマンスをさらに底上げして、上を目指していきたいですね」

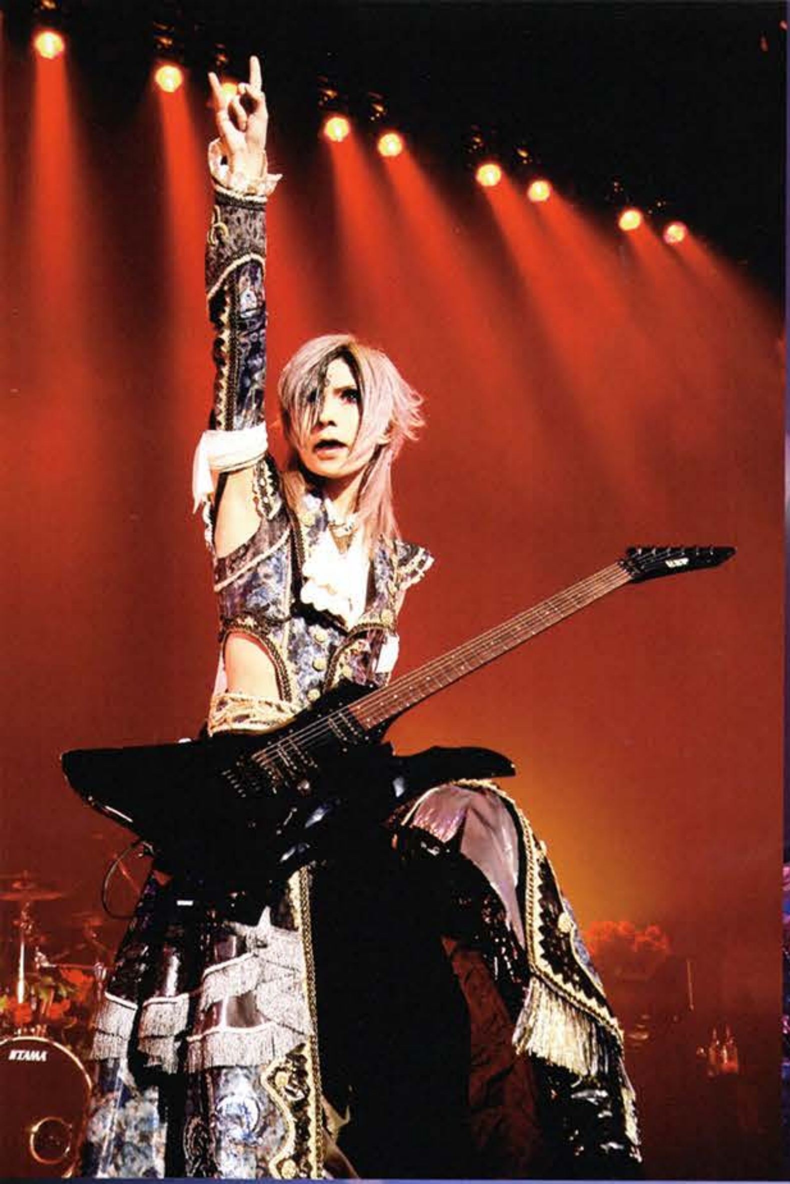
——最後にメッセージをお願いいたします。

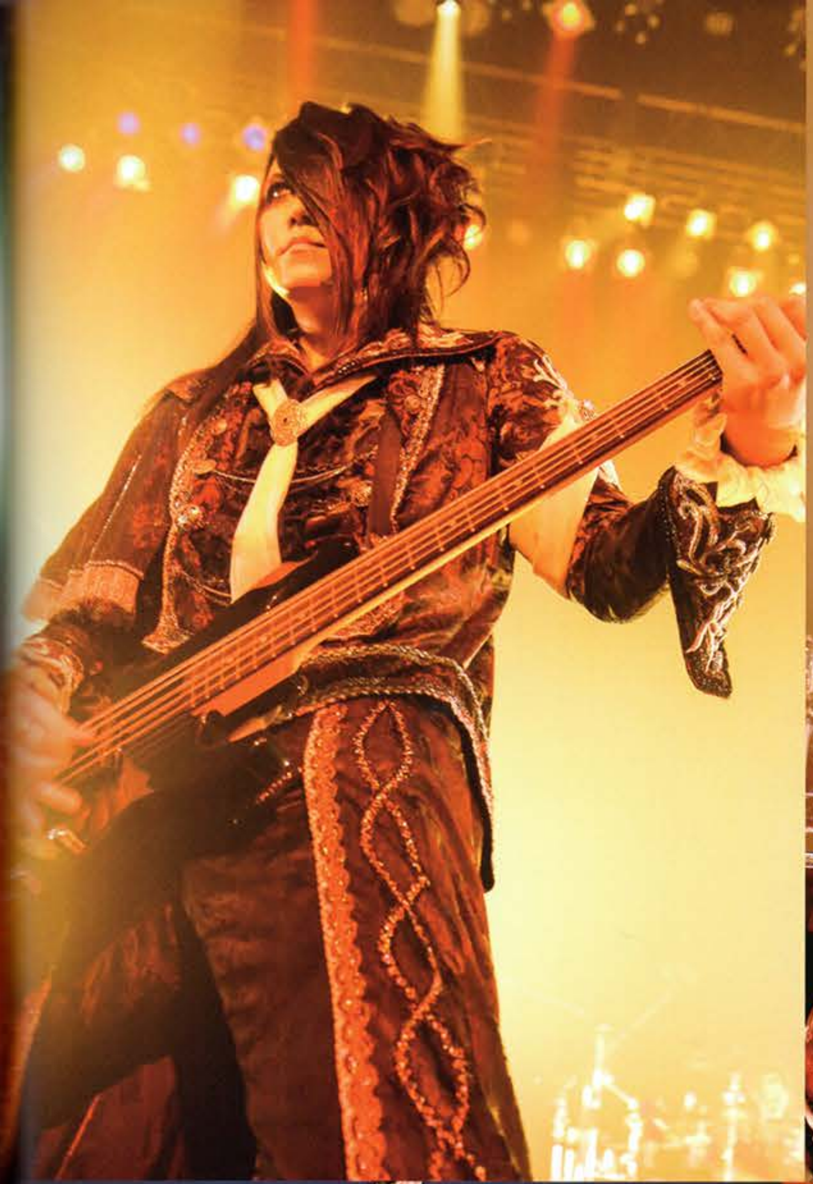
「この3年半、Versaillesはもう復活できないんじゃないかと不安になっていたファンのかたもいたと思いますが……すいませんでした。いろいろありましたが、メンバー個々にVersaillesと向き合って、以前よりもさらに絆は強くなりました。また、楽曲とパフォーマンスでみなさんを楽しませますので、引き続きついてきていただけたらと思います」

9th Anniversary Premium Show Case
2016.06.25 Zepp DiverCity Tokyo

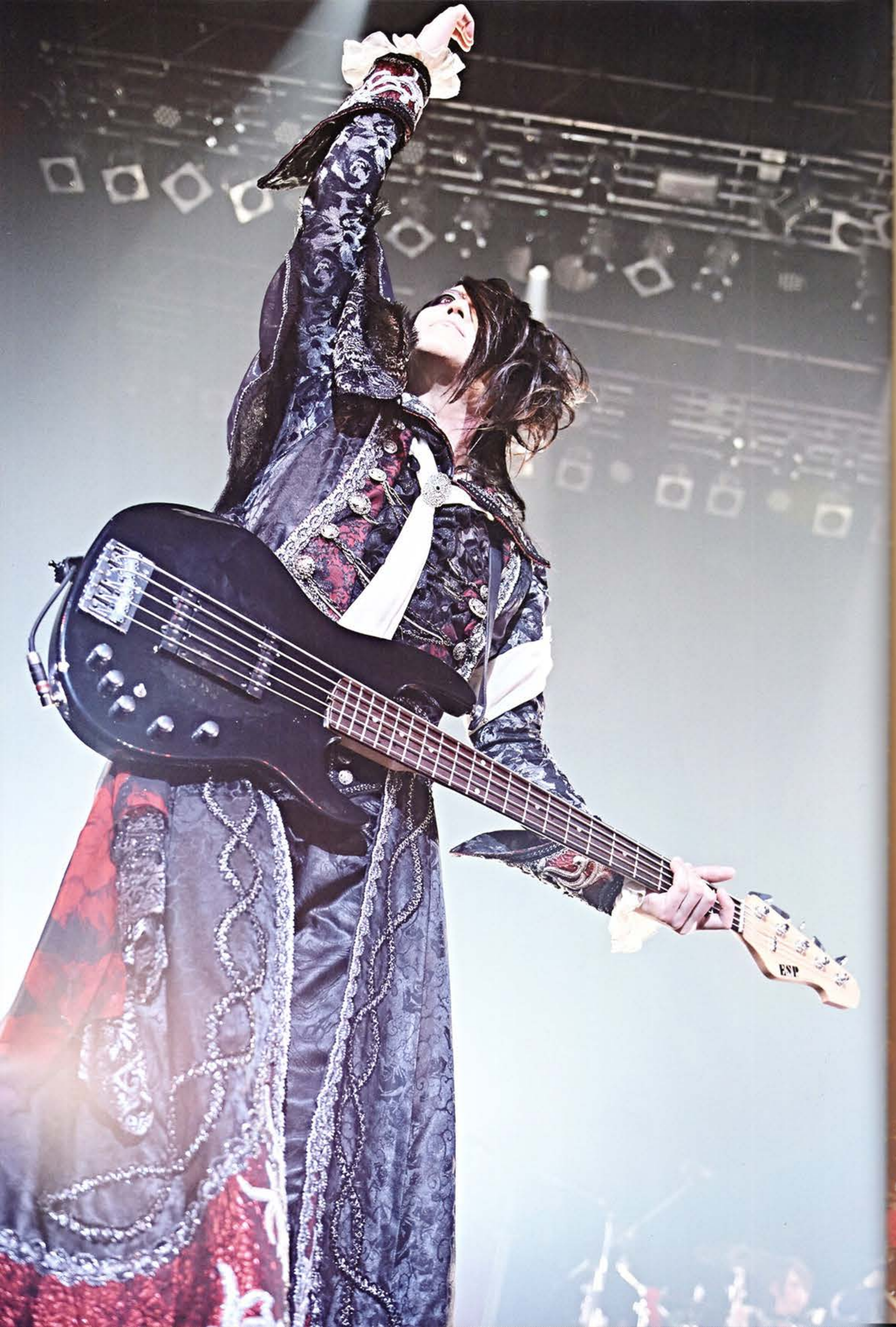
Marshall

Marshall





TAMA
EVANS


ESP

TAMA

ENGL

Versailles

Vocal : KAMIJO
Guitar : HIZAKI
Guitar : TERU
Bass : MASASHI
Drums : YUKI

Eternal Member : Jasmine You

Art Direction & Design : TERU
Photographer : Takaaki Henmi
Keiko Tanabe
Interview : Kuniaki Suzuki

Versailles
Philharmonic Quintet

© CHATEAU AGENCY CO., Ltd.